

In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University merge to Osaka Metropolitan University

Title	はじめに
Author	志賀 信夫
Citation	URP「先端的都市研究」シリーズ. 15巻, p.iii.
Published	2019-03-25
ISBN	978-4-904010-30-3
Type	Book Part
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学都市研究プラザ
Description	地方都市における子どもの貧困問題に関する研究
DOI	

Placed on: Osaka City University

Osaka Metropolitan University

はじめに

本書は、2018年度先端的都市研究拠点「共同利用事業・共同研究公募」助成金による研究（研究タイトル：「地方都市における子どもの貧困に関する研究—『社会的排除率』の理論化—」）の現時点での成果を整理したものである。研究タイトルにもあるように、本研究は「地方都市」における「子どもの貧困」を追究してきた。

ここ最近、子どもの貧困問題が注目を浴び、さながらブームの様相を呈している。子どもの貧困問題への注目は、子どもの貧困問題をめぐる研究を増加させたが、これまでの研究は「子どもの生活状態の記述」に留まるものがほとんどである。つまり、貧困の現象形態の1つである子どもの「消費生活の欠如」に着目し、それがいかに深刻なものであるのかという状態の記述が大部分を占めている。もちろんそうした研究は非常に重要である。だが、それだけでは不十分である。

貧困問題をめぐる現実とは新たな段階にある。チャールズ・ブース、シーボーム・ラウントリー、ピーター・タウンゼントなどの、貧困研究の古典は、基本的に「消費生活の欠如」の側面から貧困を理解し、貧困対策としては消費生活の保障を中心に提案してきた。だが、いまやそうした限定的な貧困理解を現実の社会が許さないようになってきている。

貧困問題をめぐる現実の新たな展開にあわせて、貧困研究は歩みを進めていかねばならない。この貧困問題をめぐる現実の新たな段階とは、貧困問題の深刻化を意味するものでは必ずしもない。生活状態をめぐるとの規範の変化を意味している。

本研究は、貧困問題の現実をめぐるとの新たな段階に対応しようとする挑戦的な試みとして開始されたものである。したがって、各章の理論的な裏付けは不十分なままである部分も少なくない。それでも挑戦的な試みとして本書を提示しようとするのは、新たな段階に対応した研究を議論の俎上にのせるためである。

本書に対する批判は大いに歓迎する。

志賀 信夫